



僕も

泣いて  
いんど  
たし

you wanna go out sometime?

Fate/zero back vol.01  
Alexander\*Weaver special  
All presented by hideki KAWAI [LOVE]

冬木の山の  
ふもとにある  
温泉に  
やってきました。

「国境の  
長いトンネルを  
抜けると温泉旅館  
だった」……!!

日本の  
有名な  
小説  
でな……?

聖杯って……  
そんな  
知識まで  
植え付けて  
くれんの？

何だよ  
ソレ……

いや、こないだ  
余りに暇で  
読んだ。

それは  
そうと……

坊主……  
金はどうした?  
温泉に来れるような  
額持っておらんだらう。

ははは!

コレを  
見ろ!!

「歳末ガラホン  
抽選会3等  
温泉旅行へア  
ご招待券。」

僕のカジ運に  
感謝しろ  
ライダー!!

そういえば  
ちまちま  
補助券集め  
とったの……

何だよおまえ  
行きたがるオ?!







1回だけ  
キスした。

「はい」

ただそれだけで…  
関係の何が  
変わったかと  
言うとは…

何も  
変わらなかった  
んだけれども

しかし、余が温泉に  
行ってみたいなどと…  
よくわかったの…

それやめろ  
…っ!!

別に…っ!!

僕は何だって  
わかるんだ!!

サーヴァントが  
疲労してるから休ませ  
なきゃ!!とか、今が  
攻撃のしどころだ!!とか

マスター  
なんだから…  
当然だろ?

◆ ◆  
◆ おお。◆  
◆ まさか◆

いらっしやい  
ませ。

女将…  
世話に  
なるぞ。

お部屋は  
コチラに  
なります。

おお…  
美しい部屋  
であるな!!

ありがとうございます。

本当は、

単におまえのコト  
ずつと  
見てたからだよ。

何にも  
わかってない  
無能なマスター  
が…他に何が  
できるってんだよ…。

しかして  
風呂は  
どちらかな?

||

|||



景色を眺めつつ星の下で開放感を味わう。うむ。風流なり。

星どころか雪降ってんじゃねえか!!!

昔を思い出すなア... 戦の途中で野湯をいたたく。アレは良いモノであった...

早々にくつろいでんじやねえよ!!

露天風呂とかいうものらしいぞ...?

何でつつ風呂が!!外にあるんだよつつ!!!

ガチガチ

露天にはこの様な酌が付き物によつて... 先程女将に申し付けておいたのだ。

それはそれはいい要領のよろしいコトで!!

熱・つゝゝゝ

わたくし!!

おまえソレどっから出した?!!!

文句ばっか言つとらんで早く入れ。凍え死ぬぞ?

む?







遠慮せんでいい。

遠慮なんかいとらんわい!!

べつ別にそんなの欲しがってなんかないし!!!

何って—!

何やら物欲しそうな顔でずつと見つめておったではないか。

な...

何だよ...?



!

そういえば全く飲めんのだったな。それは悪いコトをした。



ああ...!!!

何だよ...?



無理はするな。

の...  
飲めるよ!!





ちやんと  
味わえ。



オイオイ…  
そんなんじや  
味らしい味も  
わからんだろ…

何か…  
甘い。苦い？



おっ  
しり坊主…

おっ…

何か…  
ぐらーっと  
来る…

…





大丈夫  
なのか？  
オイ坊主…

馬鹿に  
するなよ…  
ライダー…

この位  
平気さ…



雪が…

ああ…今、



湯に  
融けてく…

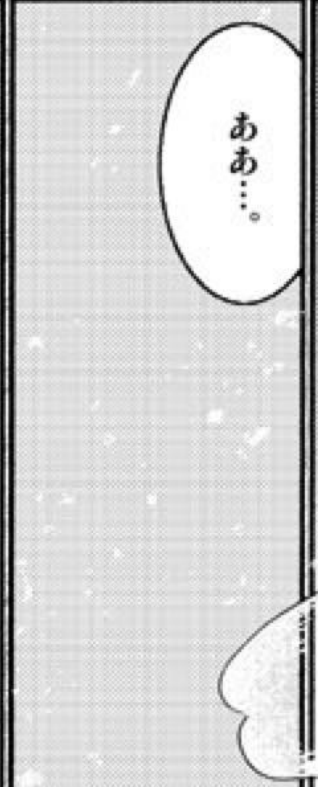
ライダーと  
同じ景色を見ている。

キレイだな…



昔…

戦の途中で  
ふと見上げると  
雪が降っていた。



ああ…



！

長い行軍の果て、  
寒さと凍傷に  
苦しみ、頼むから  
これ以上降ってくれるな、

最果ての海へ行く夢など  
金輪際忘れて  
早く暖かな故郷へ  
帰りたいとすら  
祈っていたが、

生き死にの  
命の間際ほど  
雪が美しく  
見えてくるのだ。

力尽きる間際ほど、  
命を諦めた弱い心が  
雪を美しく  
見せていた。

知っているか？

絵画ではそら醜く  
おどろおどろしく  
描かれているが

本当の  
死神はいつでも  
この世のものとは  
思えぬ程美しい  
顔をしておるのだ。

……。  
おまえの  
過去には

どうしたって  
行けないけど、

僕もこの世が  
終わる日には、  
おまえのそばに  
いたい。

でも今は、

その寂しそうな横顔に  
ちよつとキスして  
やりたいなあって、不埒な  
コトを考えていた。

恐ろしい程  
恋に堕ちて



うお...

!!!



ま...  
まさかとは  
思うけど...



ちよん



おまえと  
いつしよに  
寝るのか?!!

僕が?

おまえと?!

いつしよ  
ふとんで  
???の



昔々あるトコロに  
ハムスターと  
心優しい少年が  
いました。

.....



坊主...  
何か文句  
あんのか?  
何せ世間様かな。

!!

!



そして翌朝  
目が覚めた少年は  
驚くのです。

寒さに震える  
ハムスターちゃんを  
暖めようと少年は  
ハムスターちゃんと  
いっしょのふとんに  
入って眠りました。



冬のとある  
寒い夜、

ハムスターと少年は、  
とても仲が良く、  
朝から晩までいつも  
いっしょに  
遊んでいました。



未だかつて  
余と同衾して  
圧死した者は  
おらん!!!

※主に男女が同じおふとんで寝るコト。

自分の体の下で、  
冷たくなっている  
ハムスター  
ちゃんが



本・当  
だっ!!!

遠まき。

……  
本当か？

おまの体で  
130kgの体重を  
おまの体で  
おまの体で  
おまの体で







あつ...

早くから  
早く来い。



おんたさ...

ヒュウ...



!!!



ほんの…  
冗談だから  
さ…



ははっ…

いつもおまえには  
からかわれて  
ばっかだし…  
たまにはさ…

たまには…

おまえの。

呆気に取られた  
馬鹿面を  
拜んでみたかった  
だけで…



そら、

その面だよ  
その…

顔に「好きだ」って  
貼りつけたまま…



そういう  
コトを言うな。

だって…  
おまえが…

おまえが  
無視する  
から…





無視する  
から！...



白湯だ。  
飲め...。  
そこは  
寒かろう...



何で…

おまえのコト  
なんか…  
好きになっちゃったん  
だろう…



おまえの  
一挙手一技足に  
バカみたい  
に舞い上が  
っちゃった  
り落ちこん  
だりするん  
だ…

さっきだっ  
ておまえが、



たった3秒  
だけ黙っ  
ただけで  
このザマ  
さ…

好きって…  
もっと楽しい  
コトだと思  
ってた…

怖いんだ…





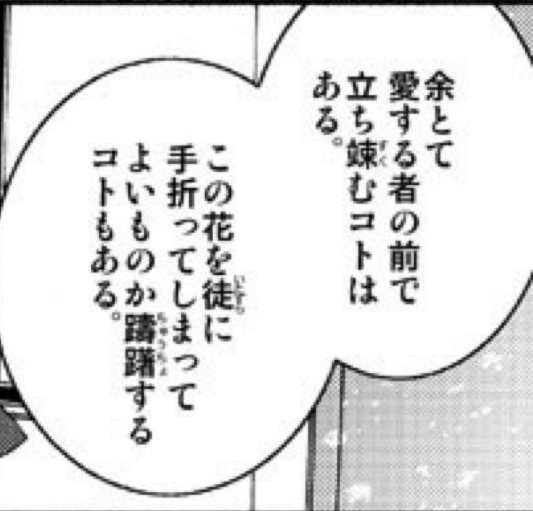
皆……、  
似た様な  
ものだ。



……。



余は現在、  
人ならざる身  
故……



余として  
愛する者の前で  
立ち竦むコトは  
ある。  
この花を徒に  
手折ってしまったて  
よいものか躊躇する  
コトもある。



勝てば……  
いい!!!

下手をすれば  
数日中にも  
永久の別れと  
なろう。



坊主とは  
生涯を共に  
してやれん。



その為なら僕は  
何だつてするし  
何だつて  
してやる!!

僕は  
おまえに……

死ななければ  
いい。勝てば  
聖杯が願いを  
叶えてくれる……!!













おまえの  
コト...



忘れられ  
なくして...



好きだよ  
ライダー!





大丈夫か？  
オイ……



なら  
よいが……

僕は壊れないよ。  
これくらいじゃ  
さ……！

何て顔で  
見てんだよ……！



僕がそんな  
へマする訳  
ないだろ……？

うっかりやり  
殺しちゃまった  
かと……ちと  
肝を冷やした。

ははっ……



まア、確かに…う？  
散々そこはさわるな  
そこは舐めてくれるなど  
泣き喚いでいた割には…

快樂に  
蕩けそうな  
顔しておったの…

ばっ…



顔…

あんまり  
見るなって…  
言ったのに…

はは。  
そりやあ見ろと言っ  
ているのと変わらんだろ。



あっはは！



馬鹿  
馬鹿  
馬鹿  
!!!!!!

恥じるコトは  
ない。  
非常に愛らしく、  
まこと目の  
保養であった。



口説いて  
おるのだよ…

！…

もっと近く……

余の腕の中まで  
参れ。

抱きしめて  
こちら辺に軽く  
口付けてくれても  
構わんぞ？

……

……

そうだ。

戦車買って  
やろうか？

余の今の小遣い  
では  
144分の1スケールに  
なるが、戦車は  
いいものだぞ？

それとも  
薔薇の花の  
方が好み  
か？

いやいや……  
書籍の方が  
好みであつた  
か……

坊主の好き  
そうな本を  
見繕って  
リボンをかけて  
贈ろうと思うが  
どうか？

バカ……

その金……つ、  
誰が出すと  
思ってるん  
だよ……



ぎゅ...ぎゅ...

そなた...



お泣いて  
るいつ  
なても  
...



